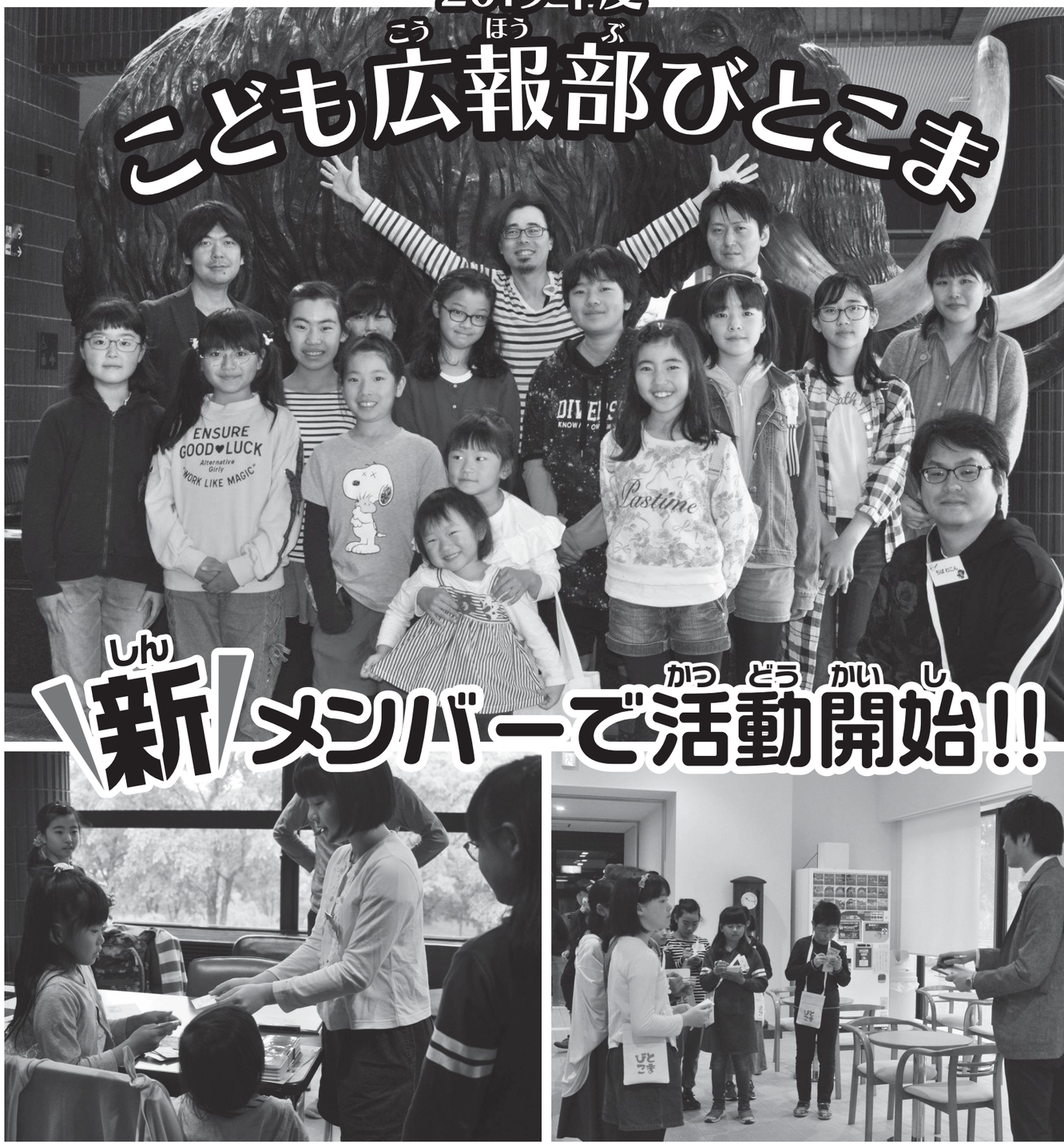
苫小牧市美術博物館の魅力を伝える

びとこま

2019 26号

2019年度 こども広報部びとこま



樽前arty2019

芸術祭のしまい方

樽前artyは、8月5日から11日まで苫小牧市立樽前小学校で行われるたくさんのアートや自然、苫小牧の歴史を体験できるイベントだよ！

世界中を旅してクジラのお話を聞きながら、物語や刺繍の作品をつくり出す是恒さくらさんや、色鉛筆だけで本物のような動物や様々な生き物を描く川崎 映さんたちのアート作品を見ることができるよ！

ほかには苫小牧にはたくさん川が流れているよね。川の近くには昔から人が住みやすい環境があったので、歴史を知るには大事な場所なんだ。

そこで苫小牧を流れる川やその周辺のお話を聞いたり、みんなも好きなメロンやリンゴを美味しく作るためにミツバチが大活躍しているお話も聞くことができるよ！夏休みは樽前小学校で待ってるよ！

詳しくはwebでね！
https://tarumae.com

編集後記

びとこま26号が完成しました。今年度は13名の子ども記者が協力し記事やイラストを書き上げました。前回から続けている記者が新たに加わった記者に取材の仕方や記事の書き方を伝え、また美術展を見る感性の違いを一緒に楽しんでいるようでした。今年も子ども広報部びとこまをよろしくお願いします！

びとこま 第26号（2019年7月発行）

【執　　筆】子ども広報部「びとこま」（阿部多香子、岡村百恵、小川さくら、栗本帆夏、小山鈴乃、たのさあや、中村文香、野本遥、原田詢矢、深澤乃愛、三浦百葉、分里心音、綿貫里咲）、NPO法人樽前artyプラス、苫小牧市美術博物館

【イ ラ ス ト】子ども広報部「びとこま」、藤沢レオ・小河けい（NPO法人樽前artyプラス）

【紙面デザイン】堀米和克（NPO法人樽前artyプラス）

【編　　集】苫小牧市美術博物館、NPO法人樽前artyプラス

【発　　行】苫小牧市美術博物館（苫小牧市末広町3丁目9－7）

びとこま記者紹介①

記事の見方
取材した人▶取材された人
「質問内容」／回答

2019年度の苫小牧市美術博物館こども広報部びとこまの活動がスタートしました。これから1年間活動する記者たちが、お互いのことを取材しました。（2回に分けて紹介します）

小川 さくら

栗本 帆夏 記者 ▶ 小川さくらさん

①「どんなとき幸せ?」➡ 友達とあそんでいるとき。

▸外でもたのしいけど中で絵をかくのが楽しい

▸たとえば…ノートをデコル。マンガみたいに目をかいたりするのが好き。

②「行ってみたい星は?」➡ か星。

▸すぐ地球に帰れるからだそう。

▸行って1秒で帰りたい。けれどもうちゅう食をたべてみたい。

▸たとえば…パスタがあればペペロンチーノやカルボナーラなど。

小川 さくら 記者 ▶ 栗本 帆夏さん

①「最近うまくいったことは?」

➡ 学級新聞を久しぶりにレイアウト、レタリングしたら、とても上手にできたこと。

▸新しい先生になって、クラスをおもしろくする「会社」というグループができたから、その社長さんにインタビューをした。

②「びとこまをはじめた理由は?」➡ 里咲さんと多香子さんにさそわれたから。

▸取材をして、記事としてまとめたことがないから、それをしてみたい。

栗本 帆夏

野本 遥

岡村 百恵 記者 ▶ 野本 遥さん

①「行ってみたい国は?」➡ ロシアだそうです。

▸お母さんから、オーケストラやバレエを見ることができると教えてもらったそうです。はるさんは、小学校に入るときからバイオリンをやっていて、それでオーケストラを見てみたいと話していました。

②「地球が滅亡する前に食べたいものは?」➡ ラム肉。

▸骨つきでおいしい。

野本 遥 記者 ▶ 岡村 百恵さん

①「好きな教科は?」➡ 体育。

▸好きな教科は体育だそうです。理由は、1年生～5年生のなつまで水泳をならっていたからで、とくにクロールがとくいだったそうです。

②「好きな場所は?」➡ みどりがおかてんぼう台。

▸いつもいっている公園とちがう。みんなでわいわい遊ぶ。

岡村 百恵

たの さあや

阿部 多香子 記者 ▶ たのさあやさん

①「お気に入りの服は?」➡ ドレスがすきなのだそうです。

▸その理由はおひめ様がすきだからなのだそうです。

②「びとこまをはじめた理由は?」

➡ 新聞をかきたいからなのだそうです。

▸さあやさんは、れきしにきょう味があるので、れきしの新聞も、かいてみたいそうです。

阿部 多香子

たの さあや 記者 ▶ 阿部 多香子さん

①「マイブームは?」➡ ぴあののれんしゅう。

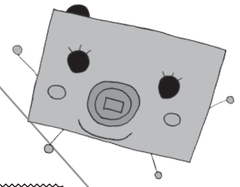
中村 文香

綿貫 里咲 記者 ▶ 中村 文香さん

①「好きな場所は?」➡ 桜が見えるところ。

②「好きな文房具は?」➡ マーカー。

▸色とりどりだから。色々な時に使えるから。



綿貫 里咲

中村 文香 記者 ▶ 綿貫 里咲さん

①「好きな文房具は?」➡ ボールペン!

▸理由は、可愛いいし、いろいろなことにも使えるから!!

②「マイブームは?」➡ マスキングテープ集め。

▸理由はがらがいろいろあり、可愛いいからです。

分里 心音

三浦 百葉 記者 ▶ 分里 心音さん

①「最近うまくいったことは?」

▸きのう1年生のむかえる会があってげきをはっぴょうしてせりふをまちがえず言えたこと。

三浦 百葉

分里 心音 記者 ▶ 三浦 百葉さん

①「マイブームは?」➡ 読書

▸おもしろかった本「のらねこぐんだんのうみのせかい」

②「好きな場所は?」➡ 2丁目公園。

▸友達とよく遊ぶ。

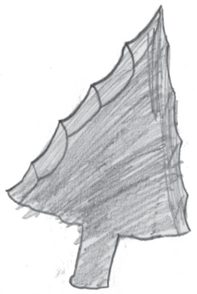
とまこまい考古コレクション ―縄文時代からトーチカまで

2019年4月27日(土)～6月23日(日)

苫小牧市埋蔵文化財調査センターを中心にこれまで苫小牧市内で実施されてきた発掘調査で出土した資料を紹介しました。

わたしがしょうかいしたいのは、黒曜石という石です。その石で作った、ナイフは、とても切れあじがよくて、紙も、人のゆびも切れるそうです。その石は、かたいけど、もっとかたい石で、ナイフの形をつくるそうです。

[野本 遥 記者]



イラスト：野本 遥

石斧＝石斧は昔、木を切ったり、土をほったり、動物の解体に使ったりしていた。緑がかったものが多いらしい。

美々鹿肉缶詰製造所跡＝141年前にたてられ、ざいりょうをにるためのかまどに使われていたレンガや、明治時代から使用されるようになった丸くぎが見つかった。

金ボタン＝弁天貝塚で見つかった。ワシとたての浮彫が入っている。1854年から1875年にかけてアメリカで作られたものが海をこえ、苫小牧にまでもたらされた。

[綿貫 里咲 記者]

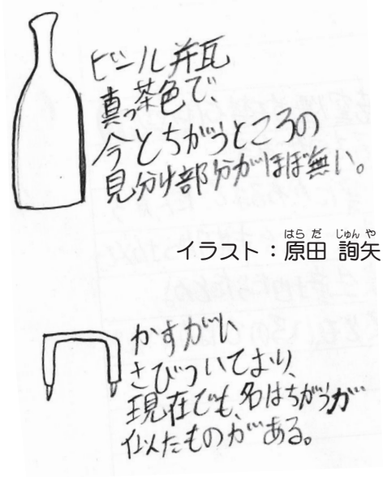
イラスト：綿貫 里咲

最近のもの

ビール瓶や炭焼窯の炭、炭焼窯煙道礎石など、こし位の深さで見つかっているものがある。

この苫小牧の地は、石炭石油等にかわるまで、だんぼうや炊事の燃料だった木炭の生産が、明治末期からさかんで、大正時代には、道内屈指の木炭生産地だったとか。

なつかしく感じる人も、少なくとも、いるのではないだろうか。



イラスト：原田 詢矢

戦争遺跡

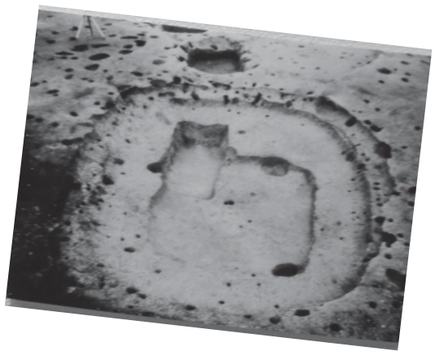
戦争の時代、よく見られたものは、トーチカや、塹壕等なのではないだろうか。

太平洋戦争も末期。北海道への米軍の上陸を食い止めるため、勇払原野に多くつくられたとされるものが、塹壕。塹壕は静川台地、柏原台地、高丘付近に網の目のように張り巡らされていた。遺物として、塹壕を建設する際の「かすがい」が見つかっている。

一方、トーチカの方は、戦後の開発により、多くがてっきょされた。元町のトーチカや、静川の綱木トーチカなど、数基のみにまでなってしまった。

戦中の時代、戦乱の時代を知る人も、少ないが、いるであろう。

[原田 詢矢 記者]



じき　いしのこなでつくる
さめのきば　ちいさい。
きんぼたん　せいふくにつかえる。
[たの さあや 記者]

ガラス玉

ガラス玉が北海道に持ちこまれたのは続縄文時代からとなっている。

アイヌ文化期になるとより多くのガラス玉が見られるようになった。

色は色々あり空色、白色またはしまも様らしい。

化学分析の結果ガラス玉は大陸からもたらされた物であることがわかっている。

この作品を見て、ガラス玉の大きさは色々で大きい物または小さいものまである。

ガラス玉にはあながあいていてかざりにも使われているように見える。　[栗本 帆夏 記者]

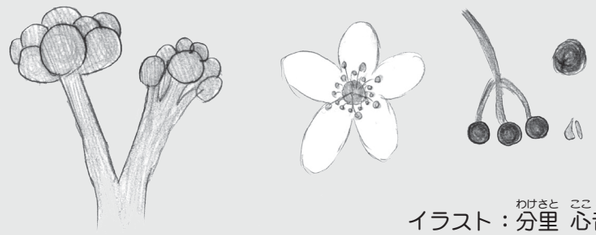
植物細事記 ―身近な木々の一年を辿る―

2019年4月27日(土)～6月23日(日)

スキャングラファー・孫田敏(1954～)の植物細密スキャン画像で苫小牧の身近な植物をクローズアップしました。

ハスカップ　ぶどう(みたい)

[たの さあや 記者]



イラスト：分里 心音

ナナカマドの名前の由来は、かまどで7回焼いても燃えないからだということを初めて知った。[綿貫 里咲 記者]

苫小牧の身近な、しかしふだんなかなかじっくりと観察する機会の少ない植物に注目し、その形の面白さ、美しさを感じられる展示。

「丘陵・山地の木々」「在来種と外来種」「湿原の木々」の3つに展示が分かれている。「丘陵・山地の木々」にはナナカマドなどが展示されている。「在来種と外来種」には3種類のタンポポ・ノギクが展示されている。「湿原の木々」にはハスカップなどが展示されている。

特殊なスキャンの方法で植物の花や実などを絵のように展示している。

ナナカマドのつぼみ・花や、タンポポのちがいが知れる、美しく勉強になる展示。

[分里 心音 記者]

中庭展示

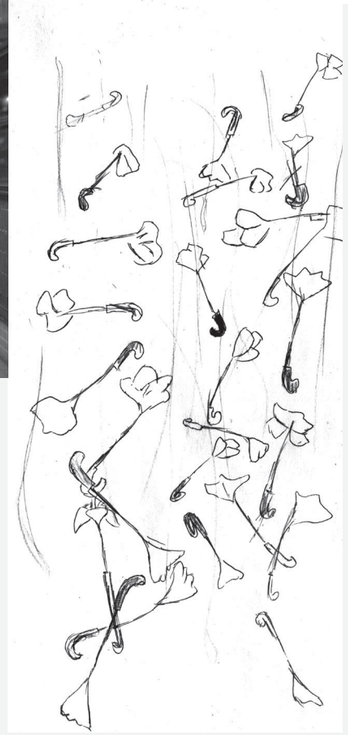
半谷学「花降り―Flower Fall―」

2019年4月27日（土）～9月16日（月・祝）

Flower Fall ―「負」を「美」に―

私達「人」は１日何千というものを捨てている。まだ使えるものまでも。今、ごみをなくそう、減らそうとしている人もいるが、実際ごみは地球を汚し続けている。その「負」の素材を「美」の素材に変える人がいる。半谷学さんだ。半谷さんは北海道生まれの美術家で、再生をテーマに廃材を素材とする造形作品を制作している。今回の中庭展示では、使わなくなった傘や麻のロープなどを使い、美と再生をテーマにしたげん想的な世界を作り出した。

この作品を見たとき、私は社会の時間にならったごみと環境破かいを思い出した。今の地球では大気が汚染され、水が汚れ、苦しんでいる人々がいることを。今、CO_2やごみによって地球温暖化が進み、異常気象が起きていることを。半谷学さんは、地球の自然と人とのデリケートな関係性、現代社会の抱える課題を表しているから、より環境と人という関係により興味をもつよい機会となった。私の中での環境破かいは決して人事ではなく、このまま１人１人が「私は関係ない」とそっぽを向いていることが残されるとしたら、それは許されないと思う。これからたくさんの人々が協力して地球を守れることを強く願う。［小川 さくら 記者］



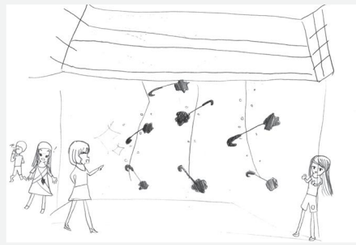
イラスト：小川 さくら

2018年に、壊れたかさや公共しせつなどで置き忘れられたかさ。げき場の舞台裏で使われていた、古いテープ牡蠣養殖で廃きされた海藻などでつくられました。約140個も、あるそうです。

今日は雨。ですが、さしがさ花がある、中庭には、すごくきれいに動く、さしがさ花が、ありました。雨にはかさ。だから、すごく合うのかな…？と、疑問に思いました。最初は、え!? これは… !? と思いました。

目の前には、取っ手がついた、レース状の花。あー、このかさじゃ、雨の日、びしょぬれや～と一しゅん、思いました。

かさを、人にたとえると、み～んな、昔みたいに、恵みの雨だ！と喜んでいる様でした。人間って、すごい、いい物をつくるようになったんですね。見習います!! 晴れの日の、この景色を、またこの美術館で、見たいです。　［中村 文香 記者］



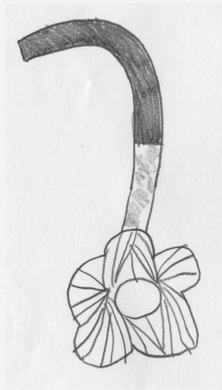
イラスト：中村文香

街は忘れられた傘や見捨てられた傘がいっぱいあります。人々は、雨がふってくるとすぐに安価な傘を買い、そして雨がやむと捨てます。こうして不要になってしまった傘は、廃棄物となって、私たちの視界から消えているのです。そこで、たくさんの人に声をかけ、いらなくなった傘を集めました。その傘を見てみると、どれも作った人の愛に満ちています。「この傘を買ってくれた人が使いやすいように」と心をこめて作った傘を私たちは平気で捨てているのです。廃材を用いた作品を作る美術家・半谷学さんは、こわれた傘や公共施設に置き去りにされた傘、げき場の舞台裏で使われていた古いロープ、牡蠣養殖で廃棄された海藻などで「さしがさばな」です。

このさしがさばなは、中庭展示されています。雨の時はしずくが光って、より美しく見え、晴れの時は太陽の光が当たってかがやいています。いらなくなった物をすぐに捨てず、「美」へと昇華させるような作品がこれからも増えていったらいいなと私は思います。　［岡村 百恵 記者］

不用なかさを使って、花をつけてぶらさげている。その花は、ハナショウブやハマナスなど、色々な花をイメージしている。

［綿貫 里咲 記者］



イラスト：綿貫 里咲

いろいろないらないけどすてられない物で作られた作品だ。こわれたかさや公共のしせつに置きわすれられたかさに、げき場のぶたいうらで使われていたロープで作った花がついていて、それがたくさんぶら下げられている。花は、２しゅるいの形があり、じっさいにある花のいいところがとりいれられていた。

［阿部 多香子 記者］

公共しせつなどで置きわすれたかさをりようして花の下の部分をあらわしている。

花は、げき場うらで使われていたロープを使っているらしい。花はそれぞれで花がひらいているかさと花が丸っぽいのがあった。

またそれぞれ、ゆっくりまわる花降りや速くまわる花降りがある。たくさんあってまわっているのがきれいにみえる。

［栗本 帆夏 記者］

さしがさばな

かさみたい。

［たの さあや 記者］

イラスト：たの さあや

イラスト：阿部 多香子

これつねさくらさんにインタビュー!!

イラスト：綿貫 里咲

仙台市から来てくれた。ぬのにししゅうをする作品を作る方で始めたきっかけは、小さいころからものを作るのが好きだった。手を動かして作ってくことが好きらしい。これまで３年間だと「約50まい作っている」と話してくれた。３年間に50まいもつくっているのはすごいと思った。こまかくきれいなさくひんでいいと思う。その作品をまぢかでみてみたいと思った。

［栗本 帆夏 記者］

美術家・是恒さくらさんの作品は、次のページで紹介している「樽前arty2019」でもみることができます。ぜひ、ご覧ください！